Kansai Harmonica Federation

会報　第122号

ハーモニカ渡来１００周年　記念特集

第１集

† ハーモニカ渡来１００周年記念特集　NO．１
　ハーモニカの歴史と当時の時代背景・・・・・・・（1）
† ハーモニカ渡来１００周年記念特集　NO．２
　二つのコンサートに参加して・・・・・・・・・・・（8）
　関連ロゴマーク決まる・・・・・・・・・・・・・・（9）
　ハーモニカ渡来１００周年について・・・・・・（10）
† ハーモニカ渡来１００周年記念特集　NO．３
　関西ハーモニカ連盟の対応・・・・・・・・・・・（11）
† *How To Enjoy Ensenble* (12)・・・・・・・・・・・（12）
† 楽しきかな、わがハーモニカ人生
　第９話　駅弁を値切った中国軍の大佐殿・・・・（16）
† 連絡事項　他・・・・・・・・・・・・・・・・・・（19）

国際ハーモニカフェスティバル
'95ジャパン
を成功させよう！

国際ハーモニカフェスティバル'95ジャパン
OCT.10-13 '95 YOKOHAMA
WORLD HARMONICA FESTIVAL '95 JAPAN

1995年10月10日(火/祝)～13日(金)
パシフィコ横浜会議センター

国際ハーモニカコンテスト/ファミリーハーモニカコンサート/ワークショップ/
ガラコンサート/スペシャルコンサート/みんなの街のハーモニカコンサート/
オープンステージ/交歓・交流スペース"プラザハーモナイゼーション"/
サービスコーナー/レセプション/インフォメーションデスク/展示コーナー etc.

「国際ハーモニカフェスティバル'95ジャパン」は、アジア地域で初めての世界大会です。成功させるには関係者のみならず外部の多くの方々のご協力が不可欠です。それにはまずハーモニカ関係者全員が総力を結集し、しっかりとした基盤を築くことが大切です。

日本ハーモニカ推進協議会の協賛金にぜひご協力下さい。

日本ハーモニカ推進協議会事務局
〒102 東京都千代田区隼町3－19
隼東幸ビル3F
TEL.03-3265-4013　FAX.03-3265-4015

ハーモニカ渡来１００周年　記念特集

NO. 1

ハーモニカの歴史と当時の時代背景

関西ハーモニカ連盟
常任顧問 吉森正隆

ハーモニカは、一体いつ頃発明されたかと申しますと、1821年に、ウィーンのフリードリッヒ・ブッシュマンが、調子笛、を発明、6年後の1827年、今から167年前、ドイツのトロシンゲンに住んでいた、クリスチャンメスナーという人が、これを改良して、ムント・ハルフェ(口のハープ)を作りました。グローブの音楽字典によれば、イギリスのホイート・ストンと言う人が1829年に発明したと言うことになっております。何れにせよ、160年余り前に発明されました。　ドイツでは、メスナーから引き継いだ、ヴァイス・コッホ、時計職人のマティアス・ホーナー達は、小さな工場を起こし、トロシンゲンが世界のハーモニカの中心となる基礎が築かれ、町は活気づいて参りました

時計職人達は、これに目をつけ、もともと手仕事は、得意ですから、片手間に、マウス・ハープを作る者が増え、急速に各地に、広がって行きました。

第一次 産業革命の波が襲って来て、トロシンゲンも例外ではなく、手作り職人達は、ピンチに追いこまれて、新天地を求めてアメリカへ渡る者が続出し これらの人達が持って行ったハーモニカを、アメリカ人が、珍しがって普及し始めた。また、それを運ぶ船乗り達を通して、瞬く間に、世界に広がって行きました。

名称

日　本	西洋横笛	カチドキ笛、	ハーモニカ
アメリカ	HARMONICA		〃
イタリア	ARMONICA A BOGCA		
	アルモニカ ア ポッス		
イギリス	MOUTH HARP		MOUTH ORGAN

フランス　　HARMONICA　アーモニカ
ドイツ　　MUND HARMONICA　ムント・ハーモニカ
中　国　　口琴　コウチン

ハーモニカに続きアコーディオンが生まれます。故にドイツではアコーディオンの事を　ハンド・ハーモニカと言い、ハーモニカは。ムント（口）ハーモニカと、どちらもハーモニカと呼ばれておりました。

日本に伝わって来たのは、

当時、鎖国状態であった、我が国には、当然伝わって来る由もなく因に1821年は、文政4年、1827年は、文政10年で、その後、天保は、14年、弘化4年、嘉永6年に、ペリーが、軍艦2隻を引き連れて、小笠原に来航、その他イギリス、オランダ、ロシア、フランス等の国々からの船が入り始めたが、安政5年に日米修好通商条約が調印された。その後万延は元年のみ、文久は、3年、元治が元年のみ、慶応が3年で、明治となる訳ですから、非常に、伝来は、遅れた訳です。

1891年（明治24年）文部省の音楽取調係で、マンドリン奏者の比留間賢八と言う人が、ヨーロッパの音楽視察から帰国した時に、持ち帰ったという事が、日伊音楽史の中に出ております。

日本で発売されたのは、1895年（明治28年）に東京銀座の十字屋の新聞広告に、西洋横笛という名称で、（呼吸に任す袖珍楽器なり）との、宣伝文句で、25銭〜〜最高2円50銭で売り出されております。その当時は、日本の音楽は、輸入物の、蝶々、故郷の空、蛍の光、植生の宿、仰げば尊し、軍歌として、道は六百八十里、敵は幾万ありとても、抜刀隊は、フランス軍楽隊長のシャルル・ルルーの作曲です。明治25年には、元寇、27年には、日清戦争の勃発で、婦人従軍歌28年には、勇敢なる水兵、雪の進軍、35年頃から小学校唱歌が今までの舶来物から、自前の金太郎、桃太郎、浦島太郎、猿蟹合戦、大江山、花咲爺、兎と亀などが、唱歌集に出て参ります。

また、66番まである、鉄道唱歌は、明治33年に作られ、大流行しました。明治34年、天才作曲家、滝　廉太郎が荒城の月を発表します。箱根

の山、もその当時です、36年に25才の若さで、世を去りました。
ハーモニカ界の巨匠、佐藤秀廊先生の名編曲で、荒城の月は、ハーモニカ界として、切っいも切れない名曲ですので、少し触れておきます。
廉太郎は、15才の最年少で、東京音楽学校に入学し、明治31年、300人の中から、首席で卒業し、ドイツへの留学生に選ばれましたが、幸田幸が、前年に選ばれ、先を越された事などから、一時延期を申し出ましたが、翌年、留学することとなりました、彼女の姉の幸田　延にピアノを学んだ廉太郎は、一番弟子となりましが、その妹の幸に先を越されたことが、不満だったようですが幸には、ピアノでは叶わぬと作曲で、勝負を掛けたようでした。この荒城の月は、従来の日本的音階のヨナ抜き音階から脱皮して、西洋音階を取り入れて花なども作曲しました。
ドイツでは、荒城の月は、ブラームス、花は、モーツアルトの作曲ではないかと言われた程でした。

この頃から、高等学校の寮歌が、ああ玉杯に花受けて（一高）紅萌ゆる岡の花（三高）都ぞ弥生の雲紫に（北大）等、次々と歌われ始められました。

日露戦争で、軍歌、日本陸軍、日本海軍、橘　中佐、広瀬中佐、などが、歌われ、難攻不落の二百三高地を落とし、日露戦争に勝利を収めました。

その後、ドイツのホーナー社が、日本向けに、ハーモニカを大量輸出して参りました。ケースのデザインは、軍人が、銃剣をつけて、突撃している図柄で、16穴複音のハーモニカ、名前をカチドキ笛として、売り込んで来ました。　謳い文句に、小さな国の日本が、大きな国のロシアに勝った、この小さなカチドキ笛も、大きな楽器に負けないぞ、と全く旨い宣伝で、戦勝気分に沸いていた当時の人達は、我も我もとカチドキ笛を買い求め、爆発的な売れ行きを示したと音楽評論家の堀内敬三氏が書いております。これで軍歌、寮歌、唱歌を吹き始め、ハーモニカが、日本国中に普及しました。

大正3 年8月8日第一次世界大戦に、我が国が参戦した為に、ドイツ

からのハーモニカの輸入が、禁止されましたので、ホーナー社のハーモニカは、50銭位の物が、5円、10円と10倍20倍に高騰した為に、ハーモニカを買う人が少なくなりました、そこで、日本でも、ハーモニカを造ろうという事になり、浜松の日本楽器、鈴木楽器、関東では、トンボ楽器等が続々とハーモニカの生産を始めました。

大正末期から昭和の戦前までが、所謂ハーモニカの第一期黄金時代となります。　宮田東峰、川口章吾や、パイプ・ハーモニカの綿貫　誉クロマチックの南部信喜、マイナー・ハーモニカの佐藤秀廊、福島常雄等、有名な演奏者を排出しました。

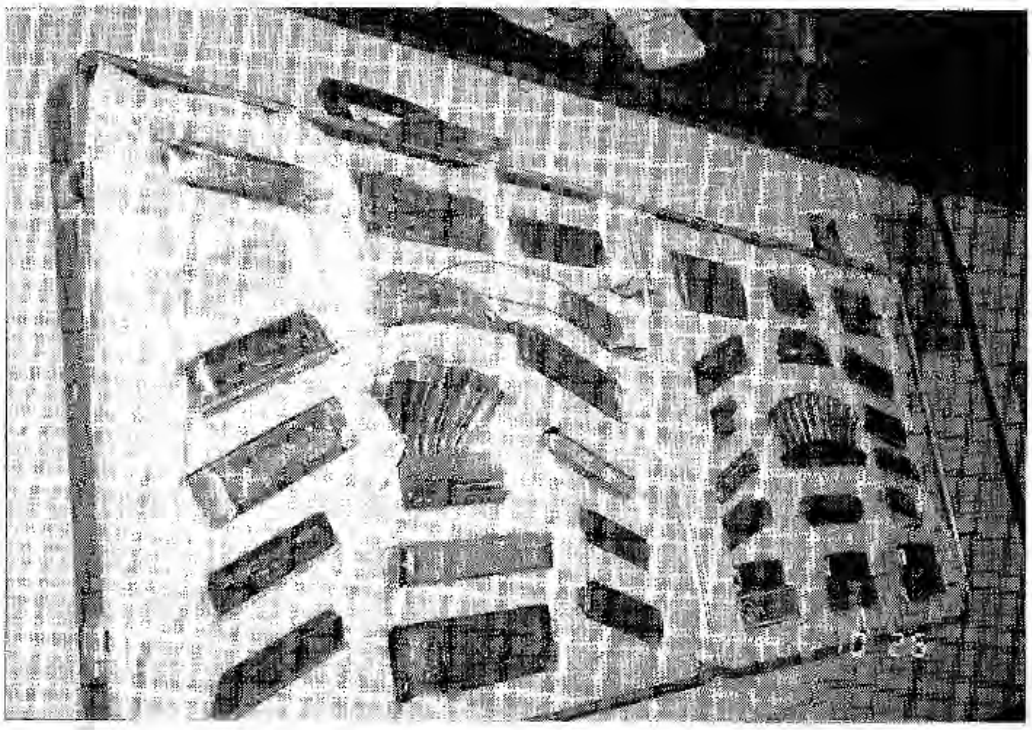
宮田東峰は、大正12年9月の関東大震災で焼け野原になった、上野公園や芝公園などで、ハーモニカを吹いたら、怒られるのではないかと、恐る恐る吹いた所、皆、涙を流して感激してくれたので、今後は、ハーモニカで身を立てようと考え、レコードの吹き込みや、バンドの結成、自分の顔写真入り（登録商標）ハーモニカの発売を始めました。

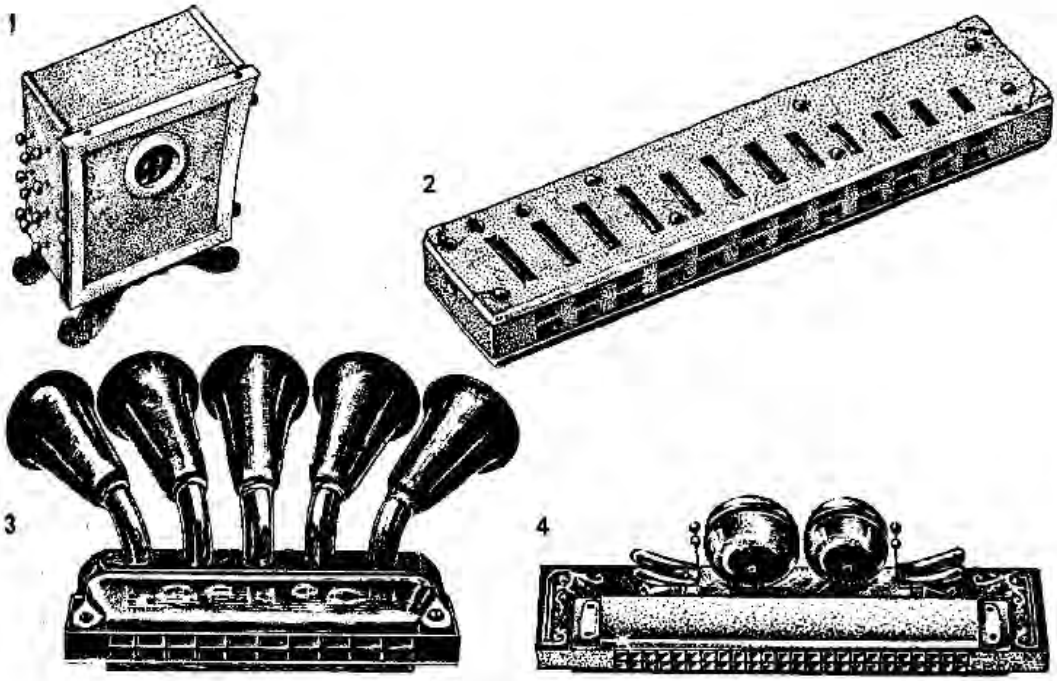
佐藤秀廊先生も、大正11年、ワシ印(現コロンビア)レコードに、ニューカレドニア・マーチを吹き込まれております。

昭和2年には、全日本ハーモニカ連盟が結成され、、初代会長、真野泰光(トンボ楽器初代社長)、理事長宮田東峰が就任しました。理事に入っておられた佐藤先生は、暫くして理事長になられ、92才のご逝去まで、現役で勤められました。

宮田東峰さんの事に戻りますが、1992年1月31日日本テレビ、昼の番組、おもいきりテレビの中の、今日は何の日と言うコーナーで、宮田東峰、7回忌の追悼画像があり、その後、私が全国生出演をして、ハーモニカの演奏法の説明や、演奏を致しました。

ハーモニカの第一期の黄金時代は、大正の末期から多くのハーモニカの名手が現れ、また川口章吾先生が、低音のファを入れる改造をされたり佐藤秀廊先生が、福島常雄先生と共にマイナー・ハーモニカを発明されたり、画期的な、分散和音奏法の開発等もあり、昭和の第二次世界大戦ののの始まる昭和16年までが、第一次黄金時代と言えると思います、




1
2
3
4

この年に、ハーモニカの 生命たるリードが生産されなくなりました。鉄砲の弾に真鋳が必要だからです。楠公さんの銅像から、お寺の鐘まで供出の時代ですから、やむを得ないことだったと考えられます。

また、ハーモニカ、アコーディオン，サックスなどの哀愁を帯びた音色の楽器の公開演奏会は、政令で，禁止の憂き目にあいました。

俳優のディック・ミネ、ミス・ワカナ、藤原釜足等16名の改名強制や、ド、レ、ミ、ファのハ、ニ、ホ、ヘ、への変更、絶対音感教育（爆撃機の識別）野球用語の外来語の使用禁止等、全く目に余るものがありました。

ハーモニカも、アルミのカバーの粗悪品が出回り、従来の手持ちの楽器のある人は兎も角、新規に購入して、吹く人は、激減しました。

第二次の黄金時代は、学校教育に取り入れられた、昭和28年頃ですが、父兄の負担を考慮して、安直な楽器の支給、また指導者の不足、サカホーンの売り出し、等、いろいろな事情で、駄目になりました。この辺の事は、更に詳しい事情を知っておられる方に、書いて戴きたいと思います。

関西の主なハーモニカ・バンド

関西学院高商は大正13年に誕生、昭和3年神戸で創立演奏会開催、戦争により中断、昭和34年最編成、

京都の同志社は、大正9年創立、同様中断、昭和30年に復活、関学、同志社は、単独演奏会の外、両校のＪＯＩＮＴ　ＣＯＮＣＥＲＴがＳ41年からしばしば開催され、また関学は、Ｓ42年、中央大学と、その後、早稲田大学とも、ＪＯＩＮＴ　ＣＯＣＥＲＴをしばしば催しております。

昭和4年の宝塚での第一回ハーモニカ大演奏会には、16団体の内関西から、関西学院、グレート大阪、大阪ソサエティー、大阪歯科医専大阪バタフライ、大阪春津ソサエティー、大阪外語バンド、が参加優勝は、浜松ＮＧバンド、

昭和5年は、中央公会堂で行われ、神戸リード・バンドが優勝、昭和10年11月28日、大阪文楽座で、関西ハーモニカ協会主催のハーモニカ合同演奏会が開かれ、合奏の外、梶　又一郎氏が火祭りの踊りを演奏外に、和歌山の森本盛太郎、神戸の二杉計二、京都の吉川元蔵氏が出演

昭和11年8月23日、大阪国民会館で独奏コンクール、優勝は木内忠重二位、柴田勝弘、

昭和6年に第一回、西日本中等学校合奏コンクールが開かれ、毎年秋に開催され 第7回に大阪の興国商業学校(筆者の母校)が初優勝、その後、9/10/11と3年連続優勝の偉業を達成しました。昭和11年は、筆者は、キャプテン、コンサート・マスターで、曲目は、セビリァの理髪師でした。

当時の、参加中等学校は、堺　商業学校、甲陽中学校、関西甲種商業学校、市岡商業学校、日本大学大阪中学校、大阪市立工芸学校などでした。課題局は、国民進軍歌でした。

一方、職場のハーモニカ・バンドも沢山結成され、小生の関係したバンドだけでも、三ッ星バンド、　蝶々バンド、阪急、阪神、百貨店のバンド、神戸リード、ヤマハ・バンド等、多数輩出しました。

昭和12年7月7日 大阪ヤマハ・バンド結成、13年小生入団、S14年、創立演奏会を大阪軍人会館で開催、小生ソロ初出演、

昭和15年、第一回中等学校ハーモニカ独奏コンクール課題曲は紀元2600年、随意曲、双頭の鷲の旗の下に、第5位入賞、戦争で中断、

戦後は、Ｓ44年2月に戦前のミヤタ、ヤマハ・バンド　大阪リード合奏団のメンバー有志で「ハーモニカ研究会」として発足アンサンブルを結成し同年6月「関西ハーモニカ・ポップス」と命名して各地でボランティア演奏を続け、昭和51年に毎日テレビへの出演がきまり、これを機に毎年秋に、定期演奏会を開催することとなり、本年1994年第19回を迎えます。。

現在は、関西各地にハーモニカ・グループが、続出して、北千里、ＡＣＣ．ＮＢＣ、尼崎、灘、奈良、牧野、洛水、宇治、その他トリオ、カルテット等、正に第3次、黄金時代の幕開けに相応しい状態となってきました。

1995年10月10日より4日間、ハーモニカ日本渡来100年を期し、世界の名手一堂に集め、各部門のコンテスト等、世界ハーモニカ・フェスティバルが、横浜で開催の予定です。 正に第三次の黄金時代の到来を肌に感じる今日この頃です。関西ハーモニカ連盟の皆様方、今後とも当連盟に力強い、ご協力をお願い致します。

ロゴマーク等決まる

日本ハーモニカ推進協議会　　斎藤　壽孝

二つのコンサートに参加して

久しぶりに関西のイベントに参加する機会を得ました。それも９月２３日神戸の兵庫民会館での《第５回　関西ハーモニカ祭り》と１１月１２日京都のエンゼルハウスで開かれた《小林忠夫出版記念ハーモニカ・コンサート》と立て続けに二つです。

《第５回　関西ハーモニカ祭り》は午前１０時３０分から午後４時３０分まで延々６時間、プログラム数４５プラス４（ゲスト）という大きなもので、このスケールは関東ハーモニカ連盟の《みんなの街のハーモニカ・コンサート》に匹敵します。独奏ありアンサンブルあり、初心者からベテランの先生方の演奏までメニューはバラエティに富んでいます。今回のゲストは東京から森本恵夫さんと東京６重奏団の皆さん、それにプロのジャズプレーヤー徳永延生さんの飛び入り演奏と私でした。

このコンサートで私は三つのことを感じました。一つはアンサンブルのグループが増えたこと、二つ目は演奏水準がかなりアップしたこと、三は若い世代、特に大学キャンパスのグループにも参加してほしかったことです。

《小林忠夫出版記念ハーモニカ・コンサート》は”楽しいハーモニカ”と題する複音ハーモニカ、クロマチック・ハーモニカのための独奏曲集の出版を記念して開かれたもので、残念なことに諸般の事情で当日完成までには至りませんでしたが、会場は満席の盛況でした。この日の出演者は主役の小林忠夫さん、そのファミリーのスリー・パーツの皆さん、そしてゲストは１０ホールズの吉田有信さんでした（ピアノ石井Ｋ介さん）。私はお祝いに参上して客席で聴かせていただこうと思っていましたが、なんとなくステージに引っ張り出されて１曲演奏させていただきました。

この演奏会はとてもレベルの高いものでした。コンセプトもしっかりしていて聴衆を飽きさせないことに感心させられました。京都ハーモニカ・カルテットの上達ぶり、スリーパーツの充実ぶりに今後大きな期待がもてると思います。

さあ、いよいよ１９９５年は《ハーモニカ渡来１００周年》です。１年間に亘る大キャンペーンが全国に展開されますが、関西地域でもこれを機にハーモニカ音楽のますますの普及と発展を願っています。

ハーモニカ渡来１００周年関連ロゴマーク決まる

1、

《ハーモニカ渡来１００周年》記念ロゴマークは１９９５年いっぱい使われます。

2、

《国際ハーモニカフェティバル’９５ジャパン》ロゴマーク
１９９５年１０月１０日～１０月１３日のためのロゴマークです。

3、

全日本ハーモニカ推進協議会ロゴマーク
《ハーモニカ渡来１００周年》を推進するために、愛好者、メーカーなど日本のハーモニカ関係者の総力をあげて作った組織「日本ハーモニカ推進協議会」のロゴマーク。ＪＨＣと読んでください。
このマークはハーモニカの普及発展のために来年以降も使われる事になっています。

4、　キャンペーンのキャラクター

キャンペーンのためのマスコットとなるキャラクター。名称を現在募集中です。他のロゴマークと併せて使用されます。

以上のロゴマークやキャラクターは、商行為を目的とする場合を除き自由な使用が許されます。使用規定はＪＨＣから近々発表されることになっています。

ハーモニカ渡来１００周年について

ハーモニカがいつ頃日本に渡来したかについては、さまざまな説があります。主なものだけあげても次の通りです。

◇　明治１９年説
作家の江見水蔭が新橋ステーションの売店で買ったことを後年、雑誌に書いている。

◇　明治２４年説
比留間賢八が明治２０年に音楽取調掛を卒業、欧米へ渡り２４年に帰国、日本にハーモニカとチターを紹介した。

◇　明治２８年説
日清戦争の後玩具として輸入された。

◇　明治２９年説
銀座十字屋の広告に西洋横笛----呼吸に任す自在の神珍楽器なり----と宣伝。

◇　明治３９年説
「明治事物起源」に明治３９年馬喰町三好堂に商品として輸入と書かれている。

以上ですが、全日本ハーモニカ連盟では銀座十字屋の広告が明治２９年であることから、その前年あたりから輸入されていたと考え、１９８０年に《ハーモニカ渡来８５周年》のキャンペーンを行いました。今年はそれから１５年、ちょうど《ハーモニカ渡来１００周年》に当たります。

便利ですよ

吉村　則次

大きな動きのコードハーモニカや、中途半端なサイズのハーモニカ、例えばバスを使うとき、特定のコードや特定の穴を示すために、私はハーモニカのカバーにマークをしています。

マークするのにエナメルを使うかたを見かけますが、私は「魚の目」のばんそっこう「スピール膏」に入っている「魚の目」のまわりを押さえるパッドを切って使っています。裏のりになっていますのですぐ引っ付きます。

こうすると、そのパッドの1ミリ弱の厚みが唇に感じますので、口が正しい位置に行っているかを確認できます。またスポンジ製でやわらかいので抵抗もありません。不要になったらすぐはずす事もできます。

もう一つの方法は、女の人が使うマニキュアを使うことです。重ね塗りするとある程度の出っ張りができますので、指または唇で感じることが出来ます。また色もいろいろ揃っています。

関西ハーモニカ連盟の対応

前号において、理事長挨拶にありました様に、関西ハーモニカ連盟に於きましても、「ハーモニカ渡来１００年記念行事実行委員会」が結成され、記念行事を計画中であります。
骨格としては下記の様になっています。

1，平成7年10月15日（日）　午前、午後、夜

2、午前、午後を通じ会員による演奏
関西の大学のハーモニカ・ソサイエティにも参加要請を行う。
夜は外国からの参加者、関西の主なプレイヤー、プロ演奏家、アンサンブルによる演奏会を行う。

3、場所は大阪市内の中心付近を計画中

以上のとおりでありますが、詳細は折衝中の大学のソサイエティ他の回答を待ち、９５年５月頃までにさらに実行委員会を開催し、決定する運びになっています。
詳細決定次第、本会報、他にて別途連絡致します。

私は、長い１６穴クロマチックのカバーの１点にこれをつけて、暗いところでもハーモニカを持つ位置がいつも一定になるようにしています。はずすときは薄め液で拭きとります。
ハーモニカにマークをつけることは、決して誉められたものではありませんが、位置が正確に分からない初心者のうちは役に立ちます。慣れたらはずしましょう。
複音ハーモニカの場合、どちらが左でどちらが右かを、目で見たり吹いてみたりして確認しておられます。（それでも間違われるかたもおられます）
例えば、カバーのどちらかにマークをつけておき、ポチが付いたのが左側というように決めておけば、曲の途中でハーモニカを替える場合でも、見なくても間違いがなくなります。
また、C調は１点、Ａマイナーは２点というふうに付けておくのも一つの手ではないでしょうか。

How To Enjoy Ensenble（12）

白鳥　達夫

前回まででハーモニカアンサンブルの演奏についての楽しみ方を中心として解説して参りました。

こんどはそのアンサンブル用の譜面を如何にしてアレンジするかについて簡単にご説明致します。アンサンブルを楽しもうとして何人かが集まられても、個人ごとに好みも違うし、レベルも違うので、適当な曲を選んでそのグループにふさわしいアレンジをするのも大変なことだと思います。

まず二重奏ですが、実はこれが一番むつかしい仕事なのです。バランスよく二人がハーモニーしなければなりませんし、また旨く二人が掛け合いの妙味を発揮できるようにアレンジすることは非常に難しいので初心の方にはちょっと無理かも分かりません。

次に三重奏ですが、これは逆に一番簡単です。普通の複音ハーモニカまたはソプラノホルン、クロマチックハーモニカなどでメロディを担当し、コード伴奏をコードハーモニカ、ベース音をベースハーモニカという組み合わせで、編曲も比較的楽にすることが出来ます。

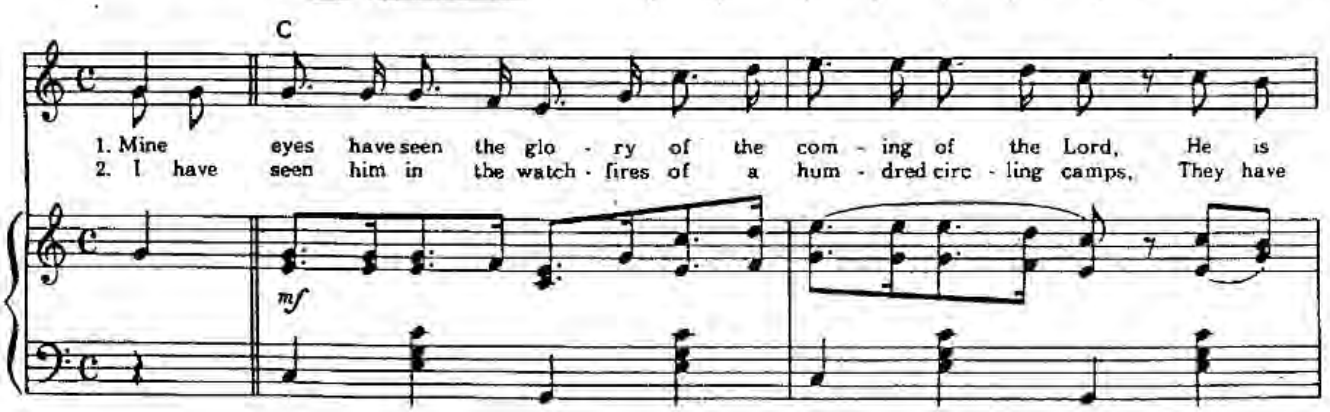
しかしなんと言っても合奏の面白さはもう一つのメロディに対抗して、包み込むように中音部でカウンターメロディが流されたり、合いの手を入れたりして変化を付けることにありますので、編成を増やして四重奏にする事をお奨めします。

それではその四重奏の編曲について色々な角度からお話を進めていきたいと思います。編曲の資料とするべき楽譜と言っても実に多くの種類の楽譜が楽器店の棚には並んでいます。先ず手始めに一番取り組みやすいのはヴァイオリン、フルート等のソロ楽器あるいはヴォーカルのソロに対してピアノ伴奏が付いている次のような楽譜がよいと思います。

リパブリック讃歌

Battle Hymn Of The Republic

Moderato March'tempo　　AMERICAN FOLK SONG



F C

tramp - ling out the vin - tage where the grapes of wrath are stored, He hath
build - ed him an al - tar in the eve - ning dews and damps, I have

5

C

loos'd the fate - ful light - ning of his ter - ri - ble, swift sword, His
read his right - eous sen - tence by the dim and flar - ing lamps, His

cresc.

Chorus

10

Dm C G7 C C

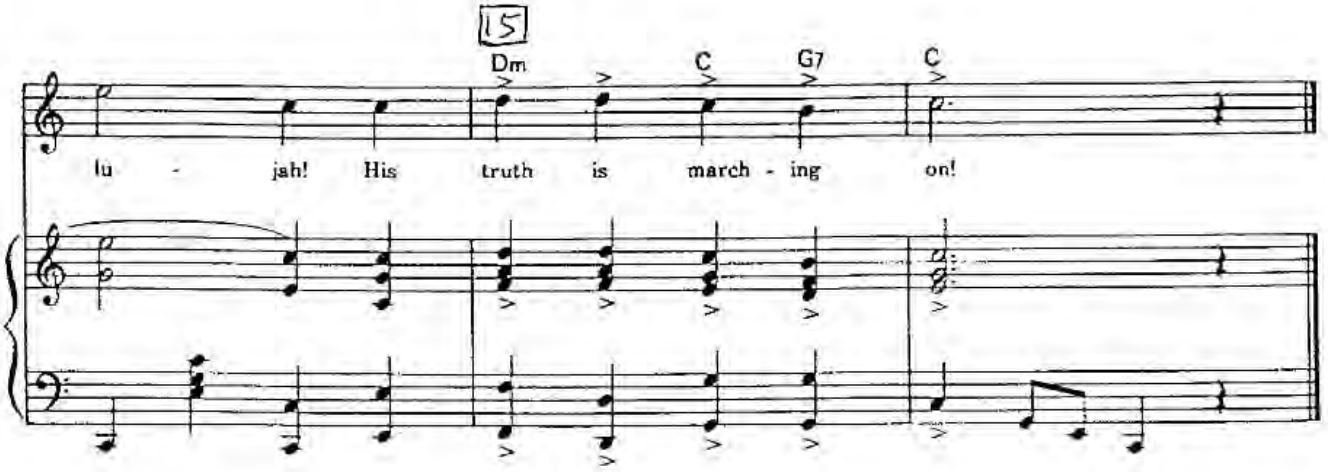
truth is march - ing on,
day is march - ing on.

Glo - ry, Glo - ry, Hal - le - lu - jah!

f

F C

Glo - ry, Glo - ry, Hal - le - lu - jah! Glo - ry, Glo - ry, Hal - le -



メロディはもちろんヴォーカルの部分を採ればよいのですが、中音の５から始めるのか低音の５から始めるかを決めなければなりません。唄全体の音域を調べてみると、最低音ミで最高音もミ、つまり１オクターブの範囲内で動いています。つまり中音５で始めると３から３まで、低音５で始めると３から３までで納まります。行進曲風の勇ましい曲ですから高い方の音域で吹いた方が効果がありそうです。

出だしのアウフタクトが第一節は５ですが、第２節のときは５５となっています。どちらにするか迷うところですが、第一節のお詞Ｍｉｎｅを日本語ならマインと何となく２音節にも取れるので５５の方を採用する事にします。（四小節目４拍目にも同様に５５があります。）

高C　５５　５.５　５.４　３.５　１.２　３.３　３.２　１０　１７

メロディを数字譜に移し終えたら、次に低音部と和音部を書き入れます。

まず低音部ですがこれもコントラバスハーモニカの音域内で、吹きやすい様にオクターブ上げ下げをしてよく鳴ることを考慮しなければなりません。またトンボとホーナーで音域が違いますのでご注意下さい。低音３から高音１までの間を主として使えばよいと思います。

コードハーモニカは名前こそコードですが、リズムを正確に刻んで、進行を助ける重要な役割も持っています。この音譜の様にコードネームが書いてあれば編曲も楽ですが、書いてない場合は音の重なりを正しく読みとってコードネームをつけなければなりません。

中音部でメロディに対する和声をつけますが、頁数が足らないので、これは次回に譲ります。お出来になる方はその後を試みにつけて見て下さい。

（次頁の楽譜の、中音部の第６小節４拍目から先はわざと入れずにおきました。次回までにそれぞれご検討頂く方が、お役に立つのではないかと思います。）

リパブリック讃歌

Moderato Mareh-Tempo　　アメリカ民謡

高 C 55 | 5.5 5.4 3.5 1.2 | 3.3 3.2 1 0 1 7 | 6.6 6.7 1.7 1.6
中 C 55 | 3.3 3.2 1.3 3.4 | 5.5 5.4 3 0 3 5 | 4.4 4.5 6.5 6.4
和 C 0 | 0 C 0 / | 0 C 0 / | 0 F 0 /
低 C 0 | 1 0 5 0 | 1 0 5 0 | 4 0 1 0

5

5.6 5.3 5 5 | 5.5 5.4 3.5 1.2 | 3.3 3.2 1 1
3.4 3.1 3 5 5 | 3.3 3.2 1.3 3.4 | 5.5 5.4 3 (以下次回)
0 C 0 / | 0 C 0 / | 0 C 0 /
1 0 5 0 | 1 0 5 0 | 1 0 5 3

10

2 2 1 7 | 1 — · 0 | 5. 4 3.5 1.2 | 3 — 1 0
Dm / C G7 | C — · 0 | 0 C 0 / | 0 C 0 /
4 4 5 5 | 1 5 1 0 | 1 0 5 0 | 1 0 1 0

6. 7 1.7 1.6 | 5 — 3 0 | 5. 4 3.5 1.2
0 F 0 / | 0 C 0 / | 0 C 0 /
4 0 1 0 | 1 0 1 0 | 1 0 5 0

3 — 1 1 | 2 2 1 7 | 1 — ·
0 C 0 C | Dm / C G7 | C — ·
1 0 1 3 | 4 2 5 5 | 1 53 1

楽しきかな、わがハーモニカ人生

酒　井　京　爾

第九話　ハーモニカは眼中になく

駅弁を値切った中国軍の大佐殿

それは戦争の最中の昭和18年晩秋 中国津浦線の列車の中での出来事だった。
私は日本への出張から帰任の途次北京に数日過ごし、再び南京に向かう列車に軍装で単身乗っていた。この車両は少数の邦人と裕福そうな中国人が乗っている頭等車(一等車)で、布団まで丸めて持って旅行する中国庶民が荷物のように積込まれる満員の三等車とは天国と地獄の差があつた。

朝済南に停車し 私の前の座席の客が降りて空いたが、そこへ大柄の国府軍人(南京の汪精衛国民党政府の軍隊)が乗り込み 幅広い二人掛け座席一杯を占めるように大きい体をズッシリと私の前の席に身を沈めた。
その軍人は 濃い草色のラシャのまだ真新しい国府軍将校の軍服を着用し 襟には大きい大佐の階級章がついていた。幅広い帯革も、肩から帯革につないだバンドも黒く光った新品であった。
大佐の軍服も立派であるが、その風貌は1米80糎もあるデップリ肥った巨体にふさわしい脂ぎってツヤツヤした赤顔で、山下奉文将軍が目を細くしたような恰幅のよい五十男であり、私はこれほど堂々とした立派なタイプの中国軍人を今迄見たことがなく、しげしげと見とれていた。

しばらく軍刀の柄に両手をのせて反り返っていた大佐殿は、そんなに姿勢が疲れてきたのか、私が一言二言中国語で話かけると、これ幸いにとばかりに顔を崩して饒舌になり出した。目を細め、唾をとばし、大声でしゃべる大佐殿の顔は策外に卑しく、そして好人物に見えた。
大佐殿は軍服の胸ポケットから、まるで葉書のように大きい名刺を取り出して私に差出した。私は名刺は持っていたが、軽々しく出せないので

『請原諒.我沒帶名片』(すみません。私合にく名刺をもっていないので)

と断りながら、大佐殿の名刺を受け取って見ると

〃南京軍需處　陸軍上校　王　某〃

と大きい字で刷り込まれていた。さしづめ日本軍式に言えば陸軍主計大佐ということになる。これなら遠慮はいらないと気楽になった私が、いつから軍人になったかと問うと、王大佐は案外気軽に

『ワシはこの春まで蕪湖(江南米の産地の都市)で、手広く糧食店(穀物店)をやっていたが、軍隊の方がよく儲かると聞いたので、丁度軍需処の上校の席が空いたと紹介する者があったから、店は息子に委せ、高い権利金で上校になった。

国府軍の必要な物資を集める仕事だが、商売に慣れているワシのことだから、万事順調で軍人商売もまんざら悪くないよ。ワッハツハ』

と臆面もなく上機嫌で哄笑する王大佐に、私は唖然として彼の顔を見るのだった。さしづめ米屋の大将が俄か大佐になり、金儲けに励んでいるわけで、中国軍の実態をまざまざと見た気がするのであった。

この国府軍の大佐殿は日本軍将校の服装に余程憧れているらしく、その軍刀はサーベルでなく、日本軍の陣太刀式であり、しかも佐官用の赤い刀緒までつけているのには恐れ入った。　それに比べて私の軍刀が地味貧弱なのが、彼には嬉しくてたまらないようだ。彼の派手な軍刀は金さえ出せば入手できるが、中身はおそらくメッキか鍼刀のような刀身であろうと、私は自分を慰めるのであった。

そんな俄か軍人の彼には軍隊の知識など全くなく、専ら商売の話に夢中で、尉官に過ぎない息子ほどの若い私に対して、大佐の階級が嬉しいのか上機嫌でしゃべり続けるので、私は車窓から見える単調な冬枯れの平原が続く景色にも退屈しない。

日本からの土産は何かと聞くので、網棚に乗せた剣道の竹刀(京都で10本ほど購入)の束と、カバンの10本余りのハーモニカ(部隊でハーモニカバンドを編成のため、当時入手困難になっていたオクターブやセロとメジャーを宮田東峰先生の口きゝで神田の松沢楽器店で集めてもらった)を見せると、王大佐は『それは商売にするのか』などとんでもないことを聞くので、分りやすい〃何日君再来〃や〃蘇州夜曲〃などを吹いて見せるが、彼は『好々』(ハオハオ、うまいうまい)とお世辞は言うが全く関心を示さず、すつかり拍子抜けしてしまう。

やがて列車が徐州を過ぎて幾つ目かの小さな駅に停車して時は、もう昼食時を大分過ぎていた。三等車の中国人達は、汚れた綿服で着膨れした体をぶっけ合うようにして、争ってホームになだれ降り溢れた。中国式駅弁屋が大きい篭を抱き黄色い声をはり上げた。饅頭や油で揚げたものを買おうと、乗客が押し合い喚き合って、つい先程まで閑散としていたであろう田舎の駅は、一変して喧騒の場となった。

王大佐は立ち上がって窓を開け駅弁屋を呼んだ。駅弁屋は上客とばかりに、ホームの三等乗客をかき分けアタフタと駆けてきた。

私は早速紙に包んだ白鶏(パイチー　鶏の丸蒸し)を買った。王大佐も白鶏と饅頭(中

に何も入らない蒸しパン)を買うのであるが、その買い方が何とも凄まじい。
値切るため車窓から体をのり出して、手を振り 口角に泡をとばし 駅弁と喧嘩口論でもしているかと思うほど激しくやり合う大佐の顔は、紅潮してもう大佐殿の顔でなく、商売人の顔になり切っていた。

やがて汽笛が鳴り、列車が再び動きだした。値切られた駅弁屋は恨めしそうに列車を見送っている。大佐は勝ち誇ったような顔で、指先を白鶏の油でギラギラさせながら、むしった白鶏を饅頭に挟んで頬ばっていた。そして大佐は私に

『これ全部で三角(30銭)にまけさせたよ』

と、私が白鶏だけでも五十銭を払ったのを揶揄し、自分の買いもの上手を誇るように言うのであった。

私は、まるで王大佐の毒気に当ったように、唖然として二の句がつけなかった。日本軍の大佐ともあれば、軍の主任参謀 師団なら参謀長 部隊なら連隊長という謹厳な雲上人で、私の如き下級将校は足元にもよれないお偉いさんなのだ。それでも湖口最前線の部隊長佃大佐は私のハーモニカを褒めてくれた。国府軍の王大佐は音楽より銭の音に魅入られているのだ。

しかし国民政府軍はこの大佐殿がいるがぎり、軍需物資を安く購入し続けるであろう。王大佐も出張旅費を少しづゝ浮かしたり、購入先からコミッションを貢がせたりして、せっせと小金を貯め、ますます肥っていくであろうと思うと、私は笑いがこみあげてくるのであった。

窓外の風景は、華北の茶褐色の冬枯れから、華中に入り南下するに従い次第に山野の緑の濃さをましてくる。その中を列車は喧騒とユーモアを満載し、揚子江北岸の終着駅浦口(南京の対岸)をめざして、江北の太平源をノロノロと南下し続けるのであった。

関西ハーモニカ連盟常任顧問
関西ハーモニカポップス会長

国際ハーモニカフェスティバル
'95ジャパン

を成功させよう！

1995年10月10日(火/祝)～13日(金)
パシフィコ横浜会議センター

国際ハーモニカコンテスト/ファミリーハーモニカコンサート/ワークショップ/
ガラコンサート/スペシャルコンサート/みんなの街のハーモニカコンサート/
オープンステージ/交歓・交流スペース"プラザハーモナイゼーション"/
サービスコーナー/レセプション/インフォメーションデスク/展示コーナー etc.

「国際ハーモニカフェスティバル'95ジャパン」は、アジア地域で初めての世界大会です。成功させるには関係者のみならず外部の多くの方々のご協力が不可欠です。それにはまずハーモニカ関係者全員が総力を結集し、しっかりとした基盤を築くことが大切です。

日本ハーモニカ推進協議会の協賛金にぜひご協力下さい。

日本ハーモニカ推進協議会事務局
〒102 東京都千代田区隼町3－19
隼東幸ビル3F
TEL.03-3265-4013 FAX.03-3265-4015

会員各位

平成6年１２月８日
関西ハーモニカ連盟
理事長　　仲村　眞

今年も残すところ僅かばかりとなりましたが会員各位におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、平素は本会の運営のためなにかとご尽力頂き、お陰を持ちまして平成6年度の行事も無事終了し、新しい年を迎える運びとなりました。これも偏に皆様のお力添えの賜と厚く御礼申し上げます。

つきましては、この度下記の如く平成７年度の連盟総会並びに常任理事会を開催致したくご案内申し上げます。

尚、既に多くの方がご存じのように来年は本邦へのハーモニカ渡来１００年にあたり、全国行事として横浜にて世界大会が行われることに決定しております。（平成7年１０月１０日～１３日）これに関連して関西地区に於いても１０月１５日（日）に大阪にて大記念行事を計画しており、次年度の事業の大半はこれに向けての対応に終始するものと思われます。この１００年に一度の機会に、一般の方にハーモニカの世界を知って頂くため為しうる限りの努力をしてみたいと考えております。

会員各位の絶大なるご質問、ご協力をお願いするところであります。

なお、総会終了後、恒例の新年の懇親会、ミニコンサートを開催したいと存じますが、併せてご出欠をお知らせ頂きたくお願い申しあげます。

記

平成７年度　　関西ハーモニカ連盟総会

と　き　平成7年1月１６日（月・休日）
　§　常任理事会　　午後1時～3時３０分
　§　総　　会　　午後3時３０分～5時
　§　新年懇親会　　午後5時～8時頃（一応9時までは借りています）
　　（会費6、０００－）

ところ　大阪市中央区北浜東3番１４号
　エル・おおさか（大阪府立労働センター）
　（常任理事会及び総会　　7階　　７０１号室）
　（新年懇親会　　１０階　松、竹）
　別紙　地図参照　ＴＥＬ　０６－９４２－０００１
　　ＦＡＸ　０６－９４２－１８９４

議題　１、平成６年度　事業経過報告
　２、平成６年度　収支決算報告
　３、事業計画・特にハーモニカ渡来１００年記念行事計画、及び協力お願い
　４、役員担当部門の一部増設、変更
　５、日本ハーモニカ賞推薦について
　６、その他、会報等の送付連絡について。会報　名簿ほか 、

関西ハーモニカ連盟
平成6年１２月発行
第１２２号
発行責任者　理事長　仲村　眞
〒545　大阪市阿倍野区三明町２－６－１０
発行者　事務局長　新井　善久
〒600　京都市下京区花屋町通西洞院東入る５６３
編集局　後藤　貞男
〒596　岸和田市春木旭町３６－１７